



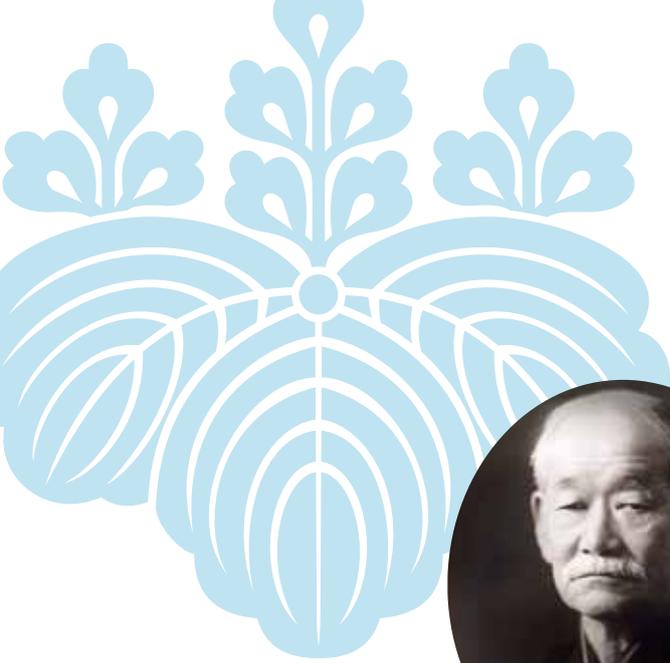
筑波大学 体育専門学群

School of Health & Physical Education
University of Tsukuba

<http://www.taiiku.tsukuba.ac.jp>

2016





2016

School of Health & Physical Education University of Tsukuba

- 1878(明治11)年10月 体操伝習所開設
- 1885(明治18)年12月 東京師範学校に附属体操伝習所
- 1886(明治19)年04月 東京師範学校は高等師範学校と改称
附属体操伝習所を廃し、体操専修科設置
- 1902(明治35)年03月 高等師範学校を東京高等師範学校と改称
- 1915(大正02)年04月 東京高等師範学校に体育科設置
- 1924(大正13)年10月 渋谷区代々木(幡ヶ谷)に体育研究所創立
- 1941(昭和16)年03月 東京高等体育学校設置(幡ヶ谷)
- 1944(昭和19)年04月 東京高等体育学校を東京体育専門学校と改称
- 1949(昭和24)年05月 東京教育大学開学(大塚) 体育学部設置(幡ヶ谷)
- 1960(昭和35)年04月 体育学部附属スポーツ研究所設置
- 1964(昭和39)年03月 東京教育大学大学院体育学研究科(修士課程)設置
- 1967(昭和42)年04月 武道学科開設
- 1973(昭和48)年10月 筑波大学開学、体育専門学群設置
- 1976(昭和51)年04月 筑波大学体育研究科(修士課程)設置
体育科学研究科(博士課程)設置
- 1977(昭和52)年03月 東京教育大学閉学
- 1989(平成元)年04月 筑波大学大学院修士課程体育研究科
(コーチ学専攻、健康教育学専攻)昼夜開講制実施
- 1990(平成02)年04月 筑波大学大学院修士課程体育研究科
(体育方法学専攻)昼夜開講制実施
- 1997(平成09)年04月 筑波大学大学院修士課程スポーツ健康科学専攻開設
- 2001(平成13)年04月 筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科設置
- 2003(平成15)年04月 筑波大学大学院修士課程スポーツ健康システム・
マネジメント専攻開設
- 2004(平成16)年04月 国立大学法人に移行
- 2006(平成18)年04月 筑波大学大学院博士課程人間総合科学研究科3年制博士課程
コーチング学専攻開設



アウトライン

筑波大学体育専門学群では、体育・スポーツ・健康に関する最新の科学的研究成果を活かしながら、指導者の養成を目指しています。指導者には優れた運動技能と幅広い運動経験を持ち、かつ、保健体育に関する総合的知識を備えた、指導力と活力に富む豊かな人間性が求められます。そのため、本学群の教育課程では、学生が各種運動の実技と方法論を基礎にしなが、約40ある卒業研究領域の中から特徴的に配列された教育課程を選ぶことができるようになっています。更には大学院との関連も考慮し、その運用には格別の配慮が払われています。

体育専門学群生は、各種運動施設及び実験実習室に恵まれ、整備された環境のもとで学習効果を上げています。各種目別に完備された運動施設は言うまでもなく、運動部活動にも十分活用されています。この運動部の活動は、単に運動技能を高めるだけでなく、社会に生きる人間としての豊かな経験を得る上でも重要な意義を持っています。そして快適で秩序ある学園生活を享受する場ともなっています。

体育専門学群は、昭和52年度から卒業生を世に送り出しています。本学群の卒業生は、中学校・高等学校・大学などの保健体育の教員はもとより、社会体育や地域保健の指導者、スポーツのコーチやトレーナー、レクリエーションのリーダー、報道・出版関係者として活躍しています。さらには企業スポーツ、リハビリテーションの指導者など幅広い分野でも活躍しています。

学群長挨拶

筑波大学体育専門学群は、1878(明治11)年に設置された官立の体操伝習所に始まり、140年近くの歴史を有しています。近代日本の教育現場にふさわしい体操の開発と指導者の養成が体操伝習所に課せられた使命でした。体操伝習所は高等師範学校(後に東京高等師範学校と校名変更)に引き継がれると、嘉納治五郎校長のもとで体育科が設置され、教育的な視点とともに、武道やスポーツが取り入れられました。東京高等師範学校体育科(1915年～)は、東京教育大学体育学部(1948年～)、筑波大学体育専門学群(1973年～)と受け継がれ、今日に至っています。

学校教育のみならず、スポーツ界においても、私たちの先人が道を切り開いてきました。日本人が初めてオリンピック競技会に出場したのは1912年。嘉納校長がアジア人初のIOC委員に就任し、東京高師と東京帝国大学の学生2名を連れてストックホルム大会に参加したのです。箱根駅伝を創設したのも東京高師関係者、サッカーの初の国際試合も東京高師によるものです。

嘉納先生は、高等師範学校、東京高等師範学校の校長を通算23年半も務め、教育改革の足跡も残されました。また、柔道を世界に広めながら、「精力善用・自他共栄」の理念を確立しました。「精力善用」は、各自の高めた力や能力を最も有効に活用することを説いたもので、「自他共栄」は、他者や社会に貢献する生き方の重要性を意味しています。今後の行動規範を示す古くて新しい概念だと思えます。

2015年は東京高師体育科創設100周年の年です。日本における学校体育とスポーツ科学の発展は、体操科から体育科に移行して以降、めざましく発展しました。

今日においては、体育・スポーツを取り巻く環境は大きく変わりました。力や技を競うことの素晴らしさ、生涯スポーツから得られる健康や楽しさに加えて、世代を越えてのコミュニケーション、復興支援にみられる社会の活性化、途上国における開発支援など、体育・スポーツの新たな価値が認識されるようになりました。スポーツの基本理念を定めたスポーツ基本法も2011年8月に施行され、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催も決まり、まさに現代は、体育・スポーツの時代であるといっても過言ではありません。

このようなことを背景としつつ、筑波大学体育専門学群では、研究成果に裏打ちされた理論と実践に基づき、経験豊かな教職員が一丸となって、「知・徳・体」を兼ね備えた人材の輩出に取り組んでいます。皆さんも筑波大学体育専門学群に加わり、切磋琢磨しながら、日本のみならず、世界で活躍できる体育・スポーツ界のリーダーになっていただきたいと思えます。伝統とは、先輩たちが築いてきたものを守るだけでなく、社会の発展に寄与する新たなものを創造することによって維持されます。そのようなことに共に挑戦したいと思えます。私たちは皆さんの活躍を応援します。

体育専門学群長 真田 久



教育・研究の組織

昭和48年、新構想大学としてスタートした筑波大学では、他の大学とは異なり、教育組織と研究組織とが独立しており、双方が独自性を保ちつつも互いに連携することによって大学の使命である教育と研究の活性化を図ろうとしています。

学生は、学群・学類と呼ばれる教育組織に所属します。体育の場合、目的を明確にした専門的な教育を早くから行う必要があるため、学類組織をもたない単一の「専門学群」となっています。体育専門学群生は、3年進級時に体育学の3分野（下記参照）に対応した39の研究領域（p.10卒業研究領域一覧）の中からいずれかを卒業研究領域として選択し、卒業研究をはじめとして、より専門的な学習が進められるようになっています。

また、大学院も平成20年から区分制博士課程に改組・再編され、さらに充実されました。体育に関する分野としては、体育学専攻（博士前期課程）、教科教育専攻保健体育教育コース（修士課程）、スポーツ健康システム・マネジメント専攻（修士課程）、体育科学専攻（博士後期課程）、学校教育学専攻（博士後期課程）、ヒューマン・ケア科学専攻（3年制博士課程）、スポーツ医学専攻（3年制博士課程）、コーチング学専攻（3年制博士課程）の8専攻が設置され、学群卒業後も各自の関心と能力に合わせて学習と研究をさらに深めることができるようになっています。

＜体育学の3分野＞	
体育・スポーツ学	体育・スポーツを主として人文・社会科学的方法（哲学、歴史学、社会学、経営学、心理学など）を用いて教育・研究する分野
コーチング学	スポーツ・運動の種目特性や運動方法および指導方法について教育・研究する分野
健康体力学	スポーツ・運動・健康について、主として自然科学的方法（生理学・解剖学・力学・栄養学・医学など）を用いて教育・研究する分野

教育課程

体育専門学群においては、様々な体育・スポーツの専門家養成を目指しています。カリキュラムはそのような専門家になるために学習すべき内容を体系化したものです。常に時代の要請に応じ、時代を先取りするカリキュラムづくりにつとめてきました。平成25年度から新しい教育課程に再編されました。

体育専門学群の学生が履修する教育課程は、筑波大学の全学生に共通に開設される一般教養的科目「基礎科目」と体育専門学群の教育目的に即して編成する「専門科目」「専門基礎科目」に大別されます。

標準的な履修イメージ

1年	2年	3年	4年
基礎科目			
専門基礎科目		専門科目	
			卒業研究
教職科目			

専門基礎科目は、体育・スポーツ科学を専門的に学ぶ全ての学生に共通に必要な最低限の基礎的知識・技術を習得する科目群であり、主として1～2年次で履修します。専門科目は、専門基礎科目の学習を基礎としながら、体育・スポーツの専門性をさらに向上させることを目的とした科目群であり、3年次以降に履修します。専門科目は、「キャリア支援科目」「分野別専門科目」「卒業研究領域科目」「実技系科目」の4つの科目群に分けて開設されています。





授業科目の構成

体育専門学群では、以下に示す豊富な授業科目の中から合計124単位以上を取得することが卒業要件になっています。保健体育科の教員免許状はもちろん、各種体育・スポーツ指導者の資格取得にも対応したカリキュラムになっています。

基礎科目

一般教養的科目

共通科目	総合科目Ⅰ	新生入に対するフレッシュマン・セミナー及び初年次導入科目
	総合科目Ⅱ	広い視野から学問のあり方や人間の生き方を考える態度・習慣を身につけるための科目。科目群A(物質、数理、生命、環境に関わる科目)、科目群B(精神、文化、社会、歴史に関する科目)、科目群C(学際的科目)で構成される。
	総合科目Ⅲ	1・2年次における基礎、専門基礎教育及び2・3年次における専門教育をベースに、社会で活躍する際に必要となる幅広い視野と学際的なものの見方、国際性及び社会適合性を涵養するための科目
	第1外国語情報国語	外国語の実用的言語技能を養うことを目的とする科目(体育専門学群では英語を指定) インターネット社会におけるルール・モラル・スキル・知識を身につける科目 自己の意志を適確に表現し伝達する日本運用能力を養う科目

関連科目

「他学群の開設科目」「教職に関する科目」「博物館に関する科目」が選択できます。

専門基礎科目

専門科目の履修にあたって基礎となる科目

体育・スポーツ学分野	体育哲学、体育・スポーツ史、武道学Ⅰ、スポーツ社会学、体育・スポーツ経営学、スポーツ政策学Ⅰ、体育・スポーツ心理学、スポーツ産業学
コーチング学分野	運動学Ⅰ、運動学Ⅱ、一般コーチング学、一般トレーニング学、個別コーチング学、個別トレーニング学
健康体力学分野	解剖学、生理学、運動生理学、運動生化学、運動栄養学Ⅰ、体力学、スポーツバイオメカニクスⅠ、健康増進学、体育測定評価学、スポーツ医学Ⅰ、衛生・公衆衛生学、健康教育学、学校保健学Ⅰ
実技理論・実習	各種運動群から7種目以上を選択、臨海実習、テーピング・マッサージ

専門科目

興味関心・能力適性に応じて選択し、重点的に専門性を高めるための科目

キャリア支援科目	体育・スポーツの職業領域で活用される実践的な知識・技術を修得する科目 保健体育教師論、体育授業の観察法、オリンピック教育、体育のカリキュラムマネジメント、アダプテッドスポーツ教育、スポーツメディア論、スポーツ法学、スポーツにおける情報戦略、サクセスエイジング論、指導者のための体力測定法、健康づくり政策論、体育指導のバイオメカニクス、スポーツ傷害の予防とリハビリテーション、スポーツキャリア形成、キャリア形成インターンシップなど
分野別専門科目	体育学を構成する各個別専門諸学の専門知識をさらに専門的・発展的に学習する科目 スポーツ倫理学、世界の体育・スポーツ史、稽古論、現代スポーツ論、メンタルトレーニングの原理と方法、スポーツ健康心理学、スポーツと企業、スポーツ技術論、スポーツ戦術論、身体表現論、動きの解剖学、パフォーマンスと体力、スポーツ衛生学、アンチ・ドーピング、ヘルスカウンセリングの理論と技法、精神保健学など
卒業研究領域科目	選択した研究領域の最新の知見や研究方法を習得するための演習・実習型科目 卒業研究領域ごとに開設された演習・実習、専門語学、卒業研究
実技系科目	各自の専門とする運動種目の実技能力及び指導力のレベルアップを目的とする科目 種目別コーチング演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ



大学院 人間総合科学研究科

体育学専攻 (博士前期課程)

体育学専攻は、スポーツ文化と社会環境、体育・スポーツ・健康に関する教育、そして身体と運動のメカニズムについて、現場で生じた問題に対して、専門領域の洞察力と総合的な視野をもちリーダーシップを発揮しながら解決する高度専門職業人を養成します。また、基盤となる科学研究の深化に向け、研究者の基礎を身につけた人材を育成します。本専攻は、5つのコースと39の研究領域を置いています。所属する学生は、いずれかのコースを選択して特定の範囲の高度職業人に要求される知識と技能を身につけ、同時にいずれかの研究領域に所属して修士論文を作成します。

また、ナショナルリーディングコーチ養成プログラムにおいては、国代表の監督・コーチ、及び我が国のコーチ教育をリードしていく人材を育成しています。

体育科学専攻 (博士後期課程)

体育科学専攻は、人間の身体と運動及びスポーツ文化を生命科学、工学、教育学、社会的に掘り下げる高度な研究能力及びその基盤となる豊かな学識を持った研究者や高度職業人養成を目的としています。本年4月からは新たに、人の身体活動能の最大発揮(HHP)できる基盤技術の開発を担い、産学官で広く活躍できる人材育成を目指した次世代健康スポーツ科学学位プログラムがスタートしています。

教育学専攻 (博士前期課程)

教育学の幅広い高度な知識と技能を修得するとともに、教育学の理論と実践とを統合した新しいカリキュラムと教授法の下で、教育の本質と現実的課題を問い続ける研究姿勢と基本的な研究方法、時代の要請に応える実践力を身につけた教育学研究者の育成を目指しています。

学校教育学専攻 (博士後期課程)

今日の学校教育をめぐる問題の複雑化・深刻化に対処するとともに、教育学研究の現実的な問題にアプローチし、学校教育の具体的実践活動に積極的にかかわる高度な専門的能力を有する研究者の養成を目指しています。この目的を達成するため2分野9専門領域から構成され、学校教育を多面的・総合的に捉える授業科目を開設して学校教育学研究を先導する充実した指導体制をとっています。

ヒューマン・ケア科学専攻 (3年制博士課程)

教育学、心理学、カウンセリング学、社会学、福祉学、保健学、看護学、医学など、従来個々に培われてきた人間援助に関する理論や実践を、関連領域が提携した人間援助に関わる統合的研究領域としてのヒューマン・ケア科学を目指します。本専攻では、人間援助の問題をホリスティックに捉えるための理論を構築し、それに基づく実践方法の開発を志向する優れた研究者、及び幅広い知識を持ち、これまで培われた技法を人間援助の諸問題に柔軟に適用できる研究者や高度専門職業人を養成します。

スポーツ医学専攻 (3年制博士課程)

スポーツ医学およびスポーツ科学に関する諸科学を基盤として、既存の分野では包含できない広範囲なカリキュラムを用意し、スポーツ選手の健康管理やコンディショニング、スポーツ障害の予防・治療・リハビリテーション、さらに生活習慣病等の予防と運動療法や運動を通じた小児から高齢者までの健康増進に関し、自立して研究活動を行うに必要な高度の研究能力およびその基盤となる豊かな学識を養います。さらに、関連した職域において将来必要とされる高度な資格の取得、および職域における指導者として不可欠な能力の開発を図ることにより、高度専門職業人を養成します。スポーツ医学に関連する教育・研究の実効性を高めるために、関連分野を有機的に融合・統合した4分野より構成されています。

コーチング学専攻 (3年制博士課程)

高度職業人レベルの指導者を指導できる、コーチングに関する確かな実務能力と高度の研究能力を兼ね備えた実務型博士の養成を目指しています。コーチング学に特化した世界初の博士課程として、各種競技団体やスポーツ組織において先導的役割を果たすリーダーとして、また、体育系大学等においてコーチング学に関する高度の教育及び研究指導を担当する者として活躍することが期待されます。

スポーツ健康システム・ マネジメント専攻 (修士課程)

主にスポーツ推進や健康づくりの各施策分野における現職者・社会人を対象に、スポーツと健康に関する社会・文化的資源の整備とそれらを最も有効に活用するシステムを開発し、自在に政策立案やマネジメントを展開していける高度な専門家を養成します。その目的は、養成されたこれら専門家集団が我が国のスポーツ・健康のより一層の発展に寄与することにあります。

スポーツウエルネス 学位プログラム (博士後期課程) (平成28年度設置予定)

スポーツウエルネス領域に係る博士レベルの高度な研究力を保有した上で、イノベーションが必要な難度の高い課題解決を推進できるマネジメント能力を併せ持つ専門の高度職業人を養成することを目指しています。

スポーツ国際開発学 共同専攻(修士課程) (平成28年度設置予定)

スポーツ国際開発学共同専攻は、筑波大学・鹿屋体育大学・日本スポーツ振興センター(JSC)によって、スポーツ・体育・健康に関する理論的実践的な知識とともに我が国で培ってきた独自の文化をすべて英語によって学び、スポーツを通して国際平和と友好を構築し、豊かな地域生活を創造することに寄与できる人材を養成します。講義、演習に加えて、16週間の海外での”On the Job Practice”により、実践現場でリーダーシップを発揮できる人材を育成します。

大学体育スポーツ高度化 共同専攻 (3年制博士課程) (平成28年度設置予定)

本専攻は、大学をはじめとする高等教育における体育スポーツ現場の教育指導と研究の循環を効果的に行える、学術的職業人としての体育教員の養成・高度化を目的として、筑波大学及び鹿屋体育大学の両大学で共同して設置する専攻です。



入学者選抜

選抜方法	選抜内容
AC(アドミッションセンター)入試	定員8 / 240名
一次選考 二次選考	<p>本学の教育目標である「国際化」、「未来志向」、「問題解決型人材の養成」に沿った人材である事に加え体育やスポーツに関する自分の実績や可能性を自ら推薦する、いわゆる自己推薦入学制度です。平成28年度入試からは、問題解決能力を重視する従来のタイプに、競技力を重視するタイプを加え選考を実施します。書類による第一次選考、また第一次選考合格者に対して第二次選考を実施し総合的に判断して最終合格者を決定します。</p> <p>書類審査 … 入学志願票、志願理由書、高等学校調査書、自己推薦書、運動特技に関する調査書</p> <p>個別面接・口述試験</p>
国際バカロレア特別入試	定員若干名 / 240名
	<p>国際バカロレア資格を取得した方を対象として、主体的に学ぶための知識や思考力、明確な目標を持って学ぶ意欲、また、語学力を含めたコミュニケーション能力などを重視して行う入試制度です。書類による第一次選考、また第一次選考合格者に対して第二次選考を実施し総合的に判断して最終合格者を決定します。</p> <p>一次選考 書類審査…志願票、エントリーシート、成績証明書、運動特技に関する調査書</p> <p>二次選考 個別面接・口述試験</p>
推薦入試	定員84 / 240名
選考	<p>高等学校長の推薦に基づき、大学入試センター試験および個別学力検査等を免除して、書類審査、小論文、個別面接及び実技検査により合格者を決定します。各高等学校から体育専門学群に推薦し得る人数は4名が限度となっています。なお、海外からの受験生に対しては、帰国生徒特別入試制度を設けています。</p> <p>1 小論文</p> <p>2 実技検査 … 事前に受験生の得意とする1種目を選択。 体操競技、ダンス、陸上競技、水泳、ハンドボール、バレーボール、バスケットボール、サッカー、ラグビー、硬式野球、テニス(硬式)、卓球、バドミントン、柔道、剣道、弓道</p> <p>3 面接</p> <p>4 精密健診(必要に応じて該当者に対して精密検査を行う)</p> <p>5 書類審査</p>
個別学力検査等 - 前期日程	定員148 / 240名
	<p>平成28年度個別学力検査は前期日程のみ行われます。まず、大学入試センター試験の結果に基づいて、定員の約3倍相当の人数を第1段階合格者としします。さらに、この第1段階合格者に対し個別学力検査等を課して、その結果(700点)と、大学入試センター試験の結果(700点)を合計し、総合的に判断して最終合格者を決定します。</p> <p>センター試験 計700点</p> <p>1 国語 200</p> <p>2 地理歴史・公民…世A、世B、日A、日B、地理A、地理B、現社、倫、政経、倫・政経から1科目 100</p> <p>3 数学…数I、数I・数A、数II、数II・数B、簿、情報から1科目 100</p> <p>4 理科…物基、化基、生基、地基から2科目 または物理、化学、生物、地学から1科目 100</p> <p>5 外国語…英(リスニングテストを含む)、独、仏、中、韓から1科目 200</p> <p>個別学力検査等 計700点</p> <p>1 実技検査…下記の中から、事前に志願者が最も得意とする1種目と、その次に得意な種目1種目、合計2種目(600)を選択。同じ種目を2度選択することはできません。 体操、器械運動、ダンス、陸上競技、水泳、野外運動、ハンドボール、バレーボール、バスケットボール、サッカー、ラグビー、野球・ソフトボール、テニス、卓球、バドミントン、柔道、剣道、弓道</p> <p>2 保健体育理論に関する論述試験 100</p>

体育専門学群卒業研究題目一覧

平成26年度

分野(領域)	論文題目
体 育 学	運動の楽しさとパフォーマンス効果を指標とした教示学習と試行錯誤学習の有効性比較
	小学校6年の陸上競技における教師の言葉がけと児童の認知に関する授業実践研究
	熊沢蕃山に関する研究－蕃山の武士観・武芸観が藩校教育に与えた影響－
健康体力学	シュメール文学における理想的な王の身体的卓越性
	テーパーが運動パフォーマンスと骨格筋の生理学的指標に及ぼす影響
	ピリミジン誘導体・オロト酸が高める運動経済性
	陸上競技者における下肢反復運動中の筋活動特性
	中高齢者における全身振動刺激を用いた一過性の筋力運動が動脈ステイフネスに及ぼす影響
運 動 学	大学ラグビー選手における神経症状を伴う頸部外傷の受傷機転
	地域在住高齢者における運動実践と心理状態の関連性
	男子ハンドボール競技のバックコートプレイヤーの1対1状況における有効的なフェイントプレー
	一流背泳ぎ選手のストロークにおける推進力発揮と筋活動の関係
	リバウンドジャンプを用いて評価した跳躍選手の下肢に関する筋力・パワー発揮プロフィール
男子やり投競技者の体力と競技パフォーマンスとの関係	
女子学生ダンス部員のストレスに関する研究	

平成25年度

分野(領域)	論文題目
体 育 学	日本の体育・スポーツにおける〈武士道〉—多様性及び特異性—
	3週間のテニスラケットの振動止め不使用訓練がストローク技能に与える影響
	大学運動部に寮生活が与える影響に関する研究～集団凝集性とモラルの視点から～
健康体力学	スポーツ基本法の立法過程に関する研究
	水温の違いが水中安静及び水中での漸増負荷運動時の呼吸循環及び体温調節応答に及ぼす影響
	ヒト運動強度のACSM指標に基づくラットの超低強度運動モデルの確立小動物用呼気ガスチャンバーを用いて
	卵巣摘出ラットにおける皮質骨のリン酸カルシウム結晶分子構造分析
	若年男性における一過性の有酸素性運動および足湯が中心循環特性に及ぼす影響
地域在住高齢者のための体力テストを用いた軽度認知障害スクリーニング尺度の開発～2年間の追跡データより～	



運 動 学	幼児を対象としたリバウンドジャンプ能力を向上させるトレーニングの効果
	バサロキックにおける動作・筋活動解析
	野球選手における足圧分布と競技力の関係について～ポジションおよび走能力に着目して～
	ダンスにおけるリズムカルな動きに関する研究～筋肉の緊張・弛緩リズムに着目して～
	ハンドボール競技における両ウイングポジションでの1対1の突破プレーに関する研究
カヌースプリント競技における心理的競技能力に関する研究	

平成24年度

分野(領域)	論 文 題 目
体 育 学	近年における競泳の競技規則の改正に関する研究
	中学校2年生のベースボール型の体育授業における打撃のゲームパフォーマンスの検討
	特別支援教育制度における体育授業の在り方―通常校に在籍した聴覚障害生徒に着目して―
健康体力学	ラグビーのゴールキックにおける軸足倒し込み訓練
	高強度インターバルトレーニングの新たな効果:運動モデルの確立と脳へのアプローチ
	成長期雄ラットにおけるコラーゲン摂取が運動による内臓脂肪減少効果および脂質代謝に及ぼす影響
運 動 学	剣道の攻撃場面における反応特性と熟練度関係
	バドミントン競技選手における睡眠の質が競技パフォーマンスに与える影響
	「パスを受ける」ための戦術的知識とパフォーマンスの関係性の考察
	陸上競技男子400m走のレースパターンと体力特性の関係
	自由形泳中における呼吸制限による呼吸法の変化
	女子ハンドボール競技における右利きバックコートプレイヤーのシュートプレーの特徴
野球のバントにおけるシャッターゴーグルを用いたトレーニングの有効性について	
照明の違いがダンサーの心理と身体感覚に及ぼす影響	



平成27年度 卒業研究領域別指導教員名一覽

領域名	領域代表教員	所属指導教員			
体育・スポーツ学					
体育・スポーツ哲学	深澤 浩洋				
体育史・スポーツ人類学	真田 久	山口 拓	李 燦雨		
スポーツ社会学	松村 和則	菊 幸一	清水 諭		
武道学	酒井 利信	大石 純子			
体育・スポーツ経営学	柳沢 和雄	清水 紀宏			
スポーツ政策学	齋藤 健司	成瀬 和弥			
スポーツ産業学	仲澤 眞	嵯峨 寿	高橋 義雄		
体育科教育学	岡出 美則	長谷川悦示	三木ひろみ	宮崎 明世	
アダプテッド体育・スポーツ学	齊藤まゆみ	澤江 幸則			
体育心理学	中込 四郎	坂入 洋右	國部 雅大		
健康体力学					
健康教育学	野津 有司	久野 譜也	武田 文	水上 勝義	橋本佐由理 片岡 千恵
環境保健学	本田 靖	田神 一美			
運動生理学	西平 賀昭	西保 岳	武政 徹		
運動生化学	征矢 英昭	大森 肇	岡本 正洋		
運動栄養学	徳山 薫平	麻見 直美			
スポーツバイオメカニクス	藤井 範久	阿江 通良	小池 関也		
応用解剖学	足立 和隆				
体力学	木塚 朝博	鍋倉 賢治	榎本 靖士	小野 誠司	
健康増進学	田中喜代次	大藏 倫博			
体育測定評価学	西嶋 尚彦				
内科系スポーツ医学	前田 清司	渡部 厚一	柴田 愛		
外科系スポーツ医学	宮川 俊平	白木 仁	向井 直樹	竹村 雅裕	福田 崇
コーチング学					
コーチング論・トレーニング学	凶子 浩二	木内 敦詞	松元 剛	河合 季信	谷川 聡
スポーツ運動学	佐野 淳	中村 剛			
体操コーチング論	長谷川聖修	本谷 聡			
体操競技コーチング論	渡辺 良夫	金谷麻理子	斎藤 卓		
陸上競技コーチング論	大山 圭悟	尾縣 貢	木越 清信		
水泳競技コーチング論	椿本 昇三	高木 英樹	本間三和子	仙石 泰雄	
バレーボールコーチング論	中西 康己	秋山 央			
バスケットボールコーチング論	内山 治樹	大高 敏弘	吉田 健司		
ハンドボールコーチング論	會田 宏	藤本 元	山田 永子		
サッカーコーチング論	中山 雅雄	浅井 武	小井土正亮		
ラグビーコーチング論	古川 拓生	中川 昭	嶋崎 達也		
ラケットバットスポーツコーチング論	川村 卓	山田 幸雄	安藤真太郎	吹田 真士	奈良 隆章 三橋 大輔
柔道コーチング論	岡田 弘隆	小俣 幸嗣	増地 克之	山口 香	
剣道コーチング論	香田 郡秀	鍋山 隆弘	有田 祐二		
弓道コーチング論					
野外運動論	井村 仁	坂本 昭裕	渡邊 仁		
舞踊論	寺山 由美	村田 芳子	平山 素子		

教職担当:三田部 勇 外国語教育担当:ネメッシュ・ローランド

平成26年度卒業生の進路の内訳と主な就職先

進学 57名(24%) 筑波大学大学院修士課程 他

企業 106名(44%) オープンハウスグループ、島根銀行、ノルディーア北海道、三菱UFJニコス、アサヒ飲料、クボタ、静岡銀行、滋賀銀行、名古屋鉄道、三菱電機、茶の木村園、三井住友銀行、豊田自動織機、ベースボールコンディショニングシステムズ、九州電力、武田薬品、パナソニック、モンテローザ、一条工務店、横浜医療ソリューションズ、東芝、電通、エン・ジャパン、昭和シェル石油、ウエスト、リクルートマーケティングパートナーズ、ニトリ、サクソバンクFX証券、オリエンタルランド、エフピコ、静岡朝日テレビ、電通パブリックリレーションズ、東京海上日動火災保険、福岡銀行、筑波学園ガス、オークワ、日本航空、ドーム、鈴与、ホクト、JR西日本、野村證券、東京ドーム、アルペン、関彰商事、SMBC日興証券、新潟アルビレックスランニングクラブ、住友林業、ユニクロ、バンダイ、JTB関東、博報堂プロダクツ、朝日新聞社、ケーブルテレビ富山、プロティア・ジャパン、三菱東京UFJ銀行、ファクトリージャングル、日立オートモティブシステムズ、JALUX、トヨタ自動車、山崎金属、日本紙パルプ商事、富士通コワーコ、Samsung C & T Japan、熊本市社会教育振興事業団アクアドームくまもと、双日、住友電装、TRIANGLE CONNECTION、ジュビターテレコム、三井住友海上火災保険、ジェイエイシーリクルートメント、ミサワホーム、山陰合同銀行、JR東海、今治夢スポーツ、トヨタ車体、川崎フロンターレ、アサコム奈良ニッセイシャ、ルネサンス、フォーバル、テレビ宮崎、陸摩酒造、三菱自動車工業、ホクト、アイシン・エイ・ダブリュ、茨城グランディアハウス、JR東日本、つくばユニテッドサンガイア、楠橋紋織、イナホスポーツウイン館林、パナソニック、セントラルスポーツ

教員 34名(14%) 公立高校・中学校、私立高校・中学校 他

公務員 13名(5%) 東京消防庁、函館市消防本部、千葉県警察本部、久山町役場、高槻市役所、兵庫県警察本部、豊田市役所、静岡県警察本部、広島県警察本部、三重県警察本部、北上市役所、香川県立聾学校、愛媛県立小松高等学校

平成25年度卒業生の進路の内訳と主な就職先

進学 51名(21%) 筑波大学大学院修士課程 他

企業 111名(46%) 富士通システムズ・イースト、三菱UFJモルガン・スタンレー証券、パナソニック、九州電力、電通、東京海上日動あんしん生命保険、JTB関東、クイック、大和証券、愛媛朝日テレビ、トヨタホーム茨城、豊田自動織機、大阪ガス、日立製作所、ライオン、静岡銀行、東京エレクトロン九州、TOTO、豊通物流、日本教育協会、三菱東京UFJ銀行、博報堂DYメディアパートナーズ、上田ケーブルビジョン、アチーブメント、カープスジャパン、アシックス、アステラス製薬、福井県民球団、千葉銀行、北海道銀行、ゴディバジャパン、アイシン・エイ・ダブリュ、ソフトバンク、リコージャパン、トーカイ、ヴィクトリア、福島放送、ジー・プラン、東京ガス、住友商事、岐阜フットボールクラブ、セントラルスポーツ、NPO法人スマイルクラブ、三井住友信託銀行、JR東日本、千葉薬品、みずほ銀行、リクルートライフスタイル、兼松エレクトロニクス、新日鐵住金、東邦銀行、一誠商事、ファクトリージャングル、西日本シティ銀行、横河マニュファクチャリング、東芝、セガ、全日本空輸、ボーラファルマ、セレスポ、旭化成ファーマ、常陽銀行、シャープ、ウィルワン、エヌ・ティ・ティ・ドコモ、JALスカイ、クアールトスミミングクラブ、楽天、シイエヌエス、カーチスホールディングス、鹿島アントラーズ、ソニーセミコンダクタ、ヤマハフットボールクラブ、十六銀行みずほフィナンシャルグループ、伊藤超短波、京葉ガス、日本新薬、ハンガリー柔道連盟、トヨタ車体、乗馬クラブクレイン、スターツコーポレーション、川崎フロンターレ、JTB首都圏、アサヒフードアンドヘルスケア、ニトリ、宇都宮村上塾、日本紙パルプ商事、学校法人了徳寺学園、ハイティ日高、日本たばこ産業、豊田合成、柏レイソルアライアンスアカデミー野田、北海道旅客鉄道、トヨタ紡織九州、三菱重工業、リクルート住まいカンパニー、オープンハウスグループ、シーフォース 他

教員 40名(16%) 公立高校・中学校、私立高校・中学校 他

公務員 10名(4%) 今治市役所、会津若松地方広域市町村圏整備組合消防本部、石川県警察本部、さいたま市役所、大阪府警察本部、大洗町役場、黒部市役所、警視庁、鳥取県警察本部、鹿児島県警察本部

平成19年度一平成24年度主な就職先一覧

【企業・団体】

アルビレックス新潟、ヴァンフォーレ甲府、FC岐阜、清水エスパルス、JFAアカデミー福島、ジュビロ磐田、水戸ホーリーホック、セレッソ大阪、千葉ロッテマリーンズ、ベガルタ仙台、東京フットボールクラブ、日本サッカー協会、日本体育協会、日本バレーボール協会、秋田県体育協会、横浜市体育協会、アシックス、ミズノ、アディダスジャパン、コナミ、セントラルスポーツ、ミキハウス、葵プロモーション、劇団四季、劇団民藝、NHK、宮城テレビ放送、関西テレビ、静岡朝日テレビ、テレビ朝日、富山テレビ、北海道テレビ、読売テレビ、朝日新聞社、毎日新聞、北海道新聞、北日本新聞社、産経新聞社、日本経済新聞社、日本経済広告社、時事通信社、大日本印刷、電通、博報堂、アサツーディ・ケイ、ベネッセコーポレーション、NTTドコモNTT西日本、KDDI、ソフトバンク、ヤフー・ジャパン、エアーニッポン、JALエクスプレス、全日本空輸、日本航空インターナショナル、JR東日本、JR西日本、日本通運、JTB、HIS、大和証券、野村證券、栃木銀行、北海道銀行、常陽銀行、仙台銀行、三井住友銀行、三菱東京UFJ銀行、岡崎信用金庫、みずほフィナンシャルグループ、三井住友信託銀行、横浜銀行、静岡銀行、中京銀行、秋田銀行、岩手銀行、山形銀行、山口銀行、東京金融先物取引所、住友生命、第一生命、大同生命、日本生命、三井住友海上火災、明治安田生命、あいおい損害保険、住友商事、伊藤忠商事、丸紅、豊田通商、双日、兼松、大塚商会、住金物産、三井不動産、日本綜合地所、トヨタホーム、ケン・コーポレーション、NEC、大崎電気工業、オムロン、河合楽器、キャノン、クボタ、コマツ、三洋電機、大同特殊鋼、TDK、デンソー、ソニー、東芝、東宝、東レ、豊田合成、トヨタ自動車、任天堂、パナソニック、日立電子、フジタ、日本IBM、富士通、パナソニック、三菱重工業、三菱電機、明電舎、ヤマハ発動機、理想科学工業、パナソニック電工、三菱電機ビジネスシステム、曙ブレーキ工業、日立建機、日産自動車、清水建設、積水ハウス、丹青社、大和ハウス工業、ジョンソン&ジョンソン、新日本石油、住友化学、SEGA、セコム、セントラル警備保障、総合警備保障、アルペン、セビオ、キリンビバレッジ、山崎製パン、エムサービス、協和発酵キリン、日清食品、ヤクルト、コココーラ、スターバックス、ロッテ、明治製菓、日本水産、日本製粉、テーブルマーク、伊藤忠食品、味の素、阪急百貨店、三越伊勢丹、資生堂、大塚製薬、久光製薬、ユニクロ、リクルート、ワコール、ミキハウス、TOKAIホールディングス、広島ガス、東京ガス、大阪ガス、中部電力、九州電力、マイナビ、エディオン、日本赤十字社、他

【官公庁等】

自衛隊、警視庁、香川県警、群馬県警、広島県警、北海道警、岐阜県スポーツ科学トレーニングセンター、大阪市消防局、上田市役所、宇都宮市役所、つくば市役所、平塚市役所、三島市役所、他

【教員】

愛知県公立高校、秋田県公立高校、石川県公立小学校、石川県養護学校、茨城県公立高校、茨城県公立中学、愛媛県公立高校、大阪府公立高校、岡山県公立高校、神奈川県公立高校、川崎市公立中学、北九州市公立高校、岐阜県公立高校、京都府公立高校、京都府公立中学、熊本県公立高校、群馬県公立高校、埼玉県公立中学、札幌市公立高校、札幌市養護学校、滋賀県公立高校、千葉県公立高校、千葉市公立中学、東京都公立高校、東京都養護学校、鳥取県公立高校、富山県公立高校、長崎県公立高校、名古屋市公立中学、奈良県公立中学、新潟県公立高校、兵庫県公立高校、福井県公立高校、福岡県公立高校、三重県公立中学、宮崎県養護学校、山形県公立高校、山口県公立高校、学校法人了徳寺学園、佐藤栄学園、昌平高校、塚原青雲高校、東亜学園高校、同志社国際中・高校、三輪田学園中・高校、ラサール高校、了徳寺学園(職員)、和洋国府台女子中・高校、江戸川学園取手中・高校、八千代松蔭中・高校他

Q&A

Q 一般教養的な学習はどのようにできるのですか？

本学の授業は、教養課程と専門課程という段階的な区分を設けずに行われています。その代わりに、一般教育的な科目と専門教育的な科目を有機的に統合し、4年間(医学類は6年間)を通じての履修によって大学教育本来の目的が達成されるように計画されています。

他大学の一般教養科目に相当するのは、本学では総合科目になります。平成27年度は学期完結型の科目を中心に、多分野に渡り約180科目が開設されており、8単位が必修となっています。

Q 学群で開設している授業の詳細は？

全ての開設科目は、毎年作成される「開設授業科目一覧」という冊子にまとめられています。そこではそれぞれの授業の概要等について記載されています。また、更に詳しい内容については授業計画、内容等を記載したシラバスを毎年公表しています。これらはインターネットで閲覧できます。

Q 教職課程や教育実習について詳しく知りたいのですが？

本学では教員免許状取得の所要資格を得るための課程として教職課程を設けています。この課程は卒業に必要な授業科目と並行して履修することになります。本学の教育実習は、附属学校または茨城県内の協力校等で実施することが原則ですが、事情によっては母校で実施することも可能です。

Q 取得できる免許や資格はどのようなものですか？

本学群で取得できる資格は、まず中学及び高校の教員免許(保健体育)です。26年度は約156名が教員免許を取得することができました。同時に特別支援(2領域・5領域)の取得も可能です。また、(財)日本体育協会公認のスポーツリーダーの資格が取れると同時に、アスレチックトレーナーや社会体育指導者の資格取得に必要な、養成講習会の受講免除等が適用されます。

その他には、教育関係の単位を多少加えて取ることにより、社会教育主事となるための基礎資格などを取得できます。

Q 運動部活動は授業に支障を来さないでしょうか？

運動部活動は基本的には課外活動ですが、体育専門学群の場合には授業と相互に連動して成果を上げられるように配慮されていますので、両方とも積極的に取り組むことができます。





留学制度はありますか？

筑波大学では、60カ国・地域及び国際連合大学と学生交流に関する合計299協定（H27.5.1現在）を締結しています。この協定に基づき、本学から相手大学等に学生を派遣するのが、交換留学です。協定校への交換留学には、次のようなメリットがあります。1（財）日本国際教育支援協会が実施する奨学金制度に申請できます。2 授業料相互不徴収に関する協定を締結している指定校にあつては、相手大学での授業料が免除されます。



学生宿舎の生活はどんな感じですか？ また下宿案内はありますか？

学生に良好な勉学の環境を提供し、自律的な市民生活を体験させることを目的として学生宿舎を設置しています。学生宿舎は一の矢地区、平砂地区、追越地区及び春日地区に計60棟設置され、個室3,430室、2人室153室、世帯室251室があります。宿舎の各居室にはベッド、机、洗面台、宿舎電話などが備え付けられ、生活に必要な身の回り品などを揃えれば生活できます。

なお、宿舎各棟には洗濯室、補食室、シャワー室なども併設され、各地区（春日地区を除く。）の学生宿舎共用棟（生活センター）には、管理事務室（春日地区は1号棟1階）・理容室又は美容室・電気店があり、その他に平砂共用棟に食堂、共同浴場、一の矢共用棟に売店があります。

また、学群の新入生は優先的に入居できるように配慮されていますが、入居希望者が計画数を上回った場合は、大学近隣からの通学可能者は入居できないこともあります。

学群新入生が入居する単身室の入居後に必要な経費（平成27年4月1日現在）は、寄宿料月額8,000円（未改修棟は6,700円）、共益費月額6,830円と個室電気料（実費）です。

大学の周辺には数多くのアパートがあります。学生部学生生活課（1D棟スチューデントプラザ）の窓口でも物件の資料を閲覧できるようになっています。



サークルはたくさんあるのですか？

本学には多くのサークルがあり、種目もレベルも多岐にわたっていますので、各自の希望にあったサークルを選択することが可能です。体育系以外にも、文化系や芸術系のサークルが多数あります。



主な就職先、職種について教えてください。

学群はこれまでの伝統を受け継ぎ、入学時には大半の学生が卒業後の進路として教職を希望しています。最近は児童生徒の減少に伴い、教職員の採用を手控える自治体が多くなり、本学群卒業生の教職員への就職は年々減少する傾向にありました。しかし、今後は徐々に教員の需要が増加することが予想されます。

またトレーナーを希望する人が多いのですが、トレーナーという職種は現在我が国では必ずしも確立されておらず、職業として従事できる可能性はあまりありません。これまでにトレーナーになった人は、アスレチックトレーナーの資格を取ることに加えて、卒業後に鍼灸師や柔道整復師などの資格を取得しています。

一方、民間企業においては体育学群学生の人気は高く、かなり広範な職種に就職し活躍している人が増加しています。そのための就職活動は3年生の後半から始まりますが、大学が提供しているサポートシステムを積極的に活用することが成功の鍵となります。

● 体育総合実験棟 SPEC

スポーツの知 ―― それはアスリートにとって必要なものです。心・技・体の調和をはかり、アスリートの競技力向上や、スポーツパーソンのスポーツライフをサポートするための施設、それが体育総合実験棟SPEC (Sport Performance and Clinic Lab.) です。

スポーツを科学的にとらえ、最新の設備と情報を用いて精度の高い実践的な研究を進めるとともに、アスリートに対して積極的に施設を開放することによって研究と現場を結びつける重要な役割を果たします。

また、SPECは、1競技力向上への貢献(アスリートへのサポート)、2地方公共団体・他研究機関との連携、3スポーツ医科学の知と技を持った実践家(トレーナー、コーチ、スポーツカウンセラー等)の養成、4スポーツ関連情報の発信(公開講座、セミナー等)という4つの理念のもとに活動しています。独立した4つの理念がSPECを通じて融合し、アスリートを総合的にサポートする理想的な環境を実現します。

SPECは国内最高水準の研究と実践の場として、常にスポーツ医科学分野のパイオニア的存在でありたいと思っています。アスリートのサポートを通じて、スポーツ医科学の知と技を持った人材の育成にも力をいれ、ハード面のみならず、ソフト面での充実を図ります。

人はスポーツを通じて喜びや感動を得ることができます。すばらしいスポーツ文化の一端を担えるよう、SPECは日々努力していきます。



メンタルトレーニング



1階 多目的実験ゾーン

多目的実験ゾーンと呼ばれるこのフロアは、各種のスポーツ動作を主としてバイオメカニクス的手法により分析し、一流選手や熟練者の技術と比較したり、アスリートの技術や指導法などに関するアイデアを検証したりするための空間です。

体育館のような多目的実験室では、各種スポーツ動作のバイオメカニクスの分析(VICONによる3次元動作分析、地面反力の測定、高速VTRによる撮影、筋電図測定など)を行うことができます。動作解析室では撮影したVTRを分析したり、より高度な計算を行うことができます。

また、このゾーンでは、バイオメカニクスやコーチ学に関する知と技を持ったスポーツコーチの育成を行います。1階入口ホールには、野外活動実習用のクライミングウォールもあります。

2階 リハビリ・トレーニング実験ゾーン

リハビリ・トレーニング実験ゾーンと呼ばれるこのフロアは、様々なスポーツ傷害のアスレティックリハビリテーションや競技力向上を目的としたトレーニングを行います。

早期で安全な競技復帰はアスリートにとって重要な課題です。ドクターとアスレティックトレーナーの連携のもと、アスリートの円滑な競技復帰をサポートします。

また、このゾーンでは、スポーツ医学や体力学に関する知と技を持ち、スポーツのメディカルサイドで必要とされるアスレティックトレーナーの育成を行います。

3階 体育系共通ゾーン

体育系共通ゾーンと呼ばれるこのフロアには、アスリートの心の問題や栄養の問題に対応するための相談室などがあります。前者では、箱庭療法、風景構成法などの表現療法やメンタルトレーニングなどを体験することができます。

また、このゾーンでは、心理学や栄養学に関する知と技を持ったカウンセラーの育成を行います。フロアには、体育、スポーツ健康科学に関する様々な研究を推進するためのプロジェクト研究室や、セミナールームもあります。



University of Tsukuba

筑波大学体育系ミッション

我々筑波大学体育系構成員は以下の使命を果たすべく、鋭意努力していきます。

【教育】 体育・スポーツ界のリーダーを育成する

- 指導的立場に立てる中学校・高校教員の養成
- 体育・スポーツに精通した大学教員・研究者の養成
- 将来、指導的立場に立てるトップアスリートの養成
- 体育・スポーツ行政に関わる上級公務員の養成
- メディア業界、健康・スポーツ産業への体育・スポーツに精通した人材の輩出

体育・スポーツをとおして筑波大学がめざす人材育成に貢献する

- 実践スタンダードとしての体育・スポーツリテラシーの育成

【研究】 体育・スポーツ界の発展に資する成果を創出し世界に発信する

- 新しい視点を提供できる体育・スポーツ・健康科学の構築
- 体育・スポーツ・健康科学に関わるプロジェクト(総合的)研究の推進

【地域貢献】

体育系の教育研究成果を活かして地域に貢献する

University of Tsukuba



筑波大学体育系

体育・スポーツ指導者の倫理宣言

われわれ筑波大学の体育・スポーツ指導者は、体育およびスポーツのよりよい姿の実現に向け、以下の宣言に照らして、学生と共に研鑽を積んでいきます。

- 1 個人の尊厳と人権を尊重します。
- 2 暴力行為を根絶します。
- 3 ハラスメントを防止します。
- 4 ドーピングを防止し、薬物濫用を根絶します。
- 5 安全を確保し、事故防止を徹底します。
- 6 規範を遵守し、倫理観の醸成に努め、積極的に行動します。

